

Shinsaibashi Reform

Magazine

vol. 16

The future
of
the
fashion



The future of the fashion

“楽しい”という機能に包まれた服

Jipijapa = ヒピハパ加賀清一氏

これからファッションは
どう深化してゆくのか？

様々な角度からその未来を探る

The future of the fashion

前回に引き続き「Jipijapa=ヒピハパ」のデザイナー加賀清一氏にお話を伺いました。

加賀氏がデザインする服は一見シンプルだが、吃驚するようなアイデアに富んでいるのが特徴、クールかつキュートな印象だ。また、素材、縫製仕様など加賀氏ならではのアイデアは細部にまで及ぶ。巷のトレンドに捉われず、我が道を直走る「Jipijapa=ヒピハパ」の服はファッション界のみならず、多くのファンを唸らせている。今回は人気のシャツに的を絞ります。



加賀 清一 さん _ Kaga Seiichi

1950年東京生まれ。

はじめてファッションを知ったのは10代の頃通った東京・下町の高架下。輸入された米国製品や海外のファッション雑誌に感化され、アメリカの最新ファッションを手に入れるため、返還前の沖縄まで出掛ける。20代で専門店のバイヤーとなり、世界各地のショップや展示会などを回り、たくさんのブランドや新人デザイナーたちと出会う。服をデザインするようになったのは1980年頃から。「スキップ&ピー」「インテリアエクステリア」などのブランドに関わった後、1992年「Jipijapa=ヒピハパ」をスタート。

Q シャツはヒピハパの十八番といっても良いくらい毎シーズン充実していますね。特別な拘りがあるのですか？

加賀__シャツはデザインの自由度が高いため、より楽しんでいます。シャツはもともと下着で、ジャケットの内側に着る物ですから、Tシャツのように自由に作りたいのです。

Q とはいえ、Tシャツのようにラフじゃなくキチンとしていますよね。

加賀__基本的なシルエットは巷で主流になっているサイズ感に合わせて作っています。カマが浅くなれば浅くしますしね…。僕はミーハーですからね!!(大笑) 頑に”こうでなければならない”と思わないようにしています。というのもそうするとデザインが行き詰まってゆくと思いますから。

Q 縫製も綺麗ですし、サイズ感はドレスシャツのようにエレガントですね。

加賀__ドレス・カジュアルという考えを持っています。デザインは遊びやユーモアが効いていてもサイズ感はレギュラーの方がいいですね。極端に大きくしたり、或いはタイトにしたりしたくないのです。もう少しいいますと、サイズ感にキャラクターを持たせたくないのです。

Q なるほどそうでしたか!!

私も2着ほど所有していますが、はじめて袖を通した時はシルエットがエレガントで吃驚しました。

Q それでは、今季の新作をご説明いた
だきましょう。

加賀__テーマはギミックです。遠目でご覧いただくと
蝶タイを締めているように見えませんか。



加賀__近くで見るとこの通りです。蝶タイの部分はポ
リエステル素材を使っていますから、お家で丸洗いで
きます。

加賀__こちらはその兄弟分とでもいいですかね、デニム素材を使って蝶タイの部分を立て的にしました。



加賀__テイストとしてはワークですが、シルエット然り、遠目で見るときっちりした感じに見えると思います。

加賀__次は丁寧なリペアをテーマにしたものです。前回紹介したジャケットとコート同様に壊れたり、破れたところをリペアしたかのようにツギハギを施しています。ポイントはリペア部分に生地を重ね縫いしていないところ。こちらのシャツは、それぞれ飛石と花札の坊主をモチーフにしています。



飛石モチーフ



花札の坊主モチーフ

加賀__これはヒピハパの定番、シノワシャツですね。



加賀__もうかれこれ30年くらい作っていますかね。
半袖、長袖の両方を展開していますが、中国ではお目
にかかれないと思うなあ～。

加賀__襟をご覧頂くとC型になっているのが分かりますが、僕はCネックシャツと呼んでいます。



加賀__前回紹介したジャケットと同じですが、こちらも身頃と袖の2パーツだけで作っています。つまり脇線は縫製していません。



加賀__前立ても縫製せずに、ネクタイのセッテピエゲのように畳んだだけの仕上げになっています。



Q 凄いですね!!

加賀__最後にご紹介するのは布帛のポロ。



加賀__素材は英国リバティ社のもを使っています。何しろ触感がシルクみたいで、実に着心地がいいのが特徴です。とはいえ、レーヨンですからお家で洗濯できます。僕はリバティ社の生地が好きで、長く使っていますが、縁あってリバティ125周年の記念デザインにも携わらせて頂きました。そうそう大変な事を忘れていました!!これにもヒピハパならではの刺繍が施してあるのですよ。花には蜂が留まっていなくて!!シャレにならないいでしょ!!(大笑)





次回は加賀さんがデザインする
新たな取り組みを紹介します。

To be Continued....

取材協力

加賀デザイン事務所

電話：03-3801-5874